

🔔 普段着のわたしたち 🔔

静岡県掛川市に掛川花鳥園と云うテーマパークがあります。息子も私もお気に入りです。時々行きたくなる場所です。

いつ行っても花がとても綺麗で、鳥もたくさんビュンビュン飛んでいます。所々に餌が売っていて手からあげることができ、肩に乗ってくれることもあります。

ハブサやフクロウなどのバードショーもあります。さらに、行くたびに感心するのは、ものすごく掃除がしてあることです。

多数の鳥が室内で放し飼いにされているのでフロアは糞だらけでもやむなしですが、モップを手にした清掃員さんが素早く拭き取ります。



飲食物の持ち込みも可能で、花が咲き乱れる温室でおにぎりをほおばりながら、とても気持ち良く遊べる場所です。

この看板鳥はハシビロコウのふたばちゃんですが、全然動かないので、個人的にはヘビクイワシがオススメです。

ヘビクイワシは長く細い足で蛇をタンタン！と踏みつけます。

掛川花鳥園は唯一その踏みつけるショーが見られる場所です。

ちなみに蛇はゴム製のおもちゃですのでご安心を。

東名掛川ICを出て5分です。



訶梨帝母

先日、江南市にある曼陀羅寺で開かれた研修会に行ってきました。

ちなみに、その話ではありません。藤の開花状況の話です。



当日(4/10)の時点で、境内・曼陀羅寺公園にある藤は左の通りとなっております。既に30cmは垂れ下がっています。

やはり、今年は随分と時機が早くなっているようですので、お楽しみであられた方は急いでお詣りください。

なお、今年は「こうなん藤まつり(4/21~5/5)」も開催されるとのことです。

やっさん

🔔 普段着のわたしたち 🔔



私の曾祖父は、明治時代、有名な説教師だったそうです。

弟子に自防の住職をさせて宗派関係なく全国のお寺をお説教に回っていた人だったそうで、東京・芝の増上寺に定席も持っていたそうです。

当時はテレビもラジオもまだ無い時代で、お坊さんが語るお説教は落語のように娯楽的な要素も多かったようです。

曾祖父の得意は「法然上人一代記」でその中でも「大原問答」を語らせたら右に出るものはいないと言われていたそうです。

私は説教師の資格は持っていませんが、依頼されて「紙芝居」、「絵本」、「地獄図・涅槃像の絵解き」をしています。紙芝居をしながら世間話を織り込んでいくスタイルです。

昨月の春彼岸に京都市内のお寺で「お釈迦さま一代記」の紙芝居をしましたが、偶然、ワールドクラシックベースボールの準決勝の試合と重なり、例年の半分のお参りでした。

御用命があれば、紙芝居(仏教系)を持って伺います。



俊徳丸



名古屋のNHKにて『どうする家康』の特別展示があるんです。行きたいのですが、仕事が忙しくなかなか行けません。

やっとなら行けそうと思いきや、もう夜で閉まっていた。

無念。

ドラマもいよいよ金ヶ崎の退き口から姉川の戦いへと徳川家康連戦の時代になりますね。

織田信長にとっても試練の玄龜年代ですが、同じく同盟国であった徳川家康にとっても連戦につぐ連戦という試練の年代でもあります。

征阿

桜に見る② 〈調和の心〉

桜の時季も過ぎ、早や新緑の季節となった。若葉の初々しい色に、心癒される日々である。しかしながら、今年の桜は早かった。咲き始めるのが早いだから、当然散りゆくのも早い。とある方は、お孫さんの入学式に桜の花が無いことを嘆いておられた。確かに今年の桜は、当地方の入学式の頃にはピークを過ぎていたように感じた。

とはいえ、桜の時季ともなると、その美しさに目を奪われる。特に、川沿いに多く植えられた桜並木は、語るまでもなく圧巻で多くの方が訪れていた。例に漏れず、私もその一人である。目的地への道すがら、たとえ遠回りにはなっても、わざわざ並木道を通ることが楽しみとなるのも桜の時季の一興である。

ある日、心弾ませながら上を向いて並木道を歩いていると、不思議な光景に出くわした。取り分けて大きく立派に枝を広げた桜の木の下で、三脚を立てて写真を撮っている家族連れを目にしたのである。何が不思議であ

ったかといえ、撮っているのは桜、も入っているが、桜そのものではなく自分達である。

よく見てみると、子どもはピカピカのランドセルを背負って制服を身に纏い、お母さんは胸に鮮やかなコーサージュを付けて艶やかな装いをしている。そして、お父さんはキリっとしたスーツに身を包んでいた。

何かの記念日かとは思ったが、なぜランドセル？ との疑問が頭を過った。日付は3月31日、卒業式の類の割には日が経ち過ぎているし、何より子どもの背格好が幼過ぎる。さりとて入学式には早い。いや、私が知らないだけで、最近の小学校は入学時期が早まったのかもしれない、とまで考えながら思いを巡らせていた。

帰って早速家内に見掛けた光景について話すと、一枚の写真を見せてくれた。4月に幼稚園へ入園する息子が制服と帽子、鞆を背負って、桜の木の下で初々しい姿を披露している写真である。

ん？ まだ頭がついていかなかった。家内から「前撮り」という言葉が発せられて、ようやく合点がいった。恥ずかしながら、頭が固いと

はこのことである。

なるほど。今年の桜は開花が早く、入学式の頃には桜が散っているであろうから、初々しい新入生の姿と最高に調和する桜を背景に先取りしていた訳だ。

自然が私たちの都合に合わせてくれることはない。私たちの都合で文句が口を衝いて出ることもあるが、花見だけでいえば意図的に東へと出掛ける方も居られて、行く先々で住所に留まるよりも長く、多くの桜を楽しまれた方もおられる。

知恵とは、この様なことを言うのだろう。自然と調和しながら、もっと頭を柔らかくして日々の生活を楽しんでいこう。



やっさん

俊徳丸、笠松競馬へ行く



私は週に2回ほど、木曾川畔の堤防を鶯や雉の鳴き声を聞きながら90分散歩しています。のどかです。その途中で笠松競馬場の前を通ります。正面スタンドが見えます。開催日は堤防の間近を馬が走って行きます。心臓の鼓動が伝わってくる距離です。一生懸命走っているのに息切れして完走できない

若い馬が時々います。コースの中に墓地や田んぼがあるのも有名です。地方競馬らしい、これまたのどかな風景です。建物も老朽化しているし。開催日であっても、スタンドにはお客さんは相変わらずまばらです。しかし、5年以上前から黒字経営だそうです。



たまたま YouTube でホリエモンが話しているのをみました。彼は以前、逮捕される前に、人気がどん底になっている関東のある地方競馬をまるごと買おうとしていたそうです。もちろん赤字経営です。ちょうど笠松競馬も、岐阜県知事が廃止にすると毎年発表していたころです。そんな時からホリエモンの頭の中には、競馬のレースをインターネットで発信し馬券を販売する構想があったのですが、当時の競馬関係者にいくら説明しても理解してもらえなかったそうで諦

めています。その後、彼は同じく人気のなかったパリーグの球団を買おうとして失敗しています。球界のドン、読売のナベツネさんに挨拶しに行かなかったことが原因だと語っていました。彼の失敗を見ていたソフトバンクや楽天は、球団購入に成功し、現在パリーグは大人気になっています。

ホリエモンの先見の目は、すごいと思います。ホリエモンの話では、現在、殆どの地方競馬が黒字経営になっているそうです。



それに増して、「競輪」が大きな収益を出し、それが存在する自治体が潤っています。全国で、10年前から「ミッドナイト競輪」を行って成功しています。夜9時から11時までレースが開催されます。私も早速ネットで見てみました。スタンドには観客は一人もいません。いない方が好都合なのです。ご近所への騒音問題も起こりませんし、警備員の費用も削減されます。晩御飯後一番リラックスした時間帯にインターネットでレースを自宅で楽しめるわけです。この事業は、お笑いの吉本興業がライブ配信をしていました。ちなみに笠松競馬は楽天がしていました。競馬場では串カツや、どて煮でビールというイメージですが、今の笠松競馬場内にはお洒落なカフェでランチ、ビールを飲むことができます。

お寺の世界でも、4月8日の「花まつり」に、京都の知恩院さんが、インターネットでお釈迦さまに「甘茶」をかけられるようにしていました。甘茶の流れ落ちる音に臨場感がありました。俊徳丸

『私説法然伝』（九十九）

せんちやくほんがねんぶつしゅう
 選択本願念佛集①

先月号では法然上人が選択本願念佛集を書かれるところまで書きました。今月号はその続きについて書きます。

【建久九年（一一九八年）法然上人は『選択本願念佛集』を撰述された。撰述とは書物を書き示すことであるが、『選択本願念佛集』略して『選択集』は法然上人一人で書かれたものではない、むしろ法然上人の指示によって弟子達と共に作り上げられたものである。『選択集』そのものの原本は現存していないが、各種伝承や歴史的事実などからいくつかはつきりとしていることがある。まず「草稿」が作られた模様であり、これは現在「廬山寺本」として京都廬山寺に所蔵されているものである。これは法然上人が口述されたものを弟子がまず書き留めて作成されたものとされる。法然上人は「選択本願念佛集」という内題と「南無阿弥陀仏往生之業念仏為先」という文だけを書か

れたという。第一章から第三章までを安楽坊遵西、第十二章までを真観房感西、第十六章までは不明とされていたが、西山浄土宗流祖の善慧房證空上人が書かれたという説が濃厚である。これに勢観坊源智を加えた少数の弟子達によって作成されたという説である。しかし安楽坊遵西は第三章まで書いたところで慢心し、法然上人によりこの「作成チーム」外されたという。善慧房證空上人は「勘文の役」という法然上人の口述される内容が正しいかどうか、經典などの原典を探して確認する役目であった。言わば法然上人の秘書にして校正までを行う役目である。

こうして出来上がった草稿本を元に清書されて九条兼実卿に献上された。その清書された『選択集』は上下二巻であり、上巻を法然上人が、下巻を善慧房證空上人が書かれたと伝わる。残念ながらその本そのものは行方不明であるが、法然上人にとって善慧房證空上人がどれだけ重要な弟子であったかがわかる史実であろう。

『選択本願念佛集』とは、「佛」が選択されたこと、つまり「本願」とは何か、「念佛」とは何か、ということを書然上人が經典などに基づいて説き示されたものである。一切の衆生、すべての人々のために阿弥陀如来は「本願」として「念佛」を「選択」された、その意義を法然上人が論理的に明かされたものというわけである。】

法然上人が撰述された『選択集』とは、法然上人とお弟子達によって作られたものです。そのお弟子の中に西山浄土宗の流祖となられる善慧房證空上人が、重要な役目を果たしていたというわけです。それは、それだけ善慧房證空上人という方が法然上人を理解していたという事でもあります。

以下次号に続く（征阿）





我が宗の総本山光明寺至近、長岡天満宮の遠景です。約70mに100株のキリシマツツジが植えられ、樹高は2.5m。真っ赤な壁の間を歩くのはなかなか圧巻な景色です。

毎年4/21～25の5日間、ご本山では御忌（法然上人のご命日法要）がつとまります。私もかれこれ20年近く出仕させていただいています。当初、25日の法要を終え帰路につく際、「帰りに天神様のキリシマを見て帰ろうかと思えます」というと京都のお人らが「まだまだ早い、天神さんのキリシマは5月の連休や」と言っておみえでした。それから十数年後、遠目にも赤いモノが確認できたので、歩いてみましようと思ってみると、これを満開と言わずして何を言わんや！というほど咲き誇っていました。日差しも強く、しばらく歩くと汗ばむほどの陽気でした。さらに数年後、25日ではやや盛りを過ぎたような花の色。あの頃より十日は早くなっているのです。今年もご本山へ出仕ついでに観賞に行こうと予定しているのですが、散っていないか心配です。（現在4/15）

約20年で随分気候が変化したのだと実感しています。今年は桜も早かったですね。近

所の幼稚園の門前に桜の木がありますが、3月末にその幼稚園に入園すると思われる親子連れが、満開の桜の下で入園式の前撮りをしている光景を見ました。4/7の入園式には桜が無いと思つての記念撮影です。そのうち卒業式を満開の桜の下で迎えることになるのでしょうか。

さて、憂いていても仕方ないので長岡天満宮の由緒でも。天満宮ですから祭神はもちろん菅原道真公。901年、大宰府に左遷となった際この地に立ち寄り「我が魂長くこの地にとどまるべし」と名残を惜しまれた縁故により、903年道真の死後に公自作の木像を祀る祠が建てられたのが起源だそうです。写真の池は、1638年に八条宮智仁親王が築造された八条ヶ池。そのお池に浮かぶ数寄屋造りの建物は境内にある高級料亭錦水亭のお座敷。たけのこ料理で有名です。キリシマツツジは江戸初期に標高約1700mの鹿児島県霧島山の山中に自生するツツジの中から選抜され、全国各地に広まったそうです。キリシマツツジは街路樹で見かけるヒラドツツジよりも花が小ぶりです。ご本山御忌参詣後、一度お立ち寄りくださいませ。



訶梨帝母